

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月20日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2012

課題番号：21242021

研究課題名（和文） 協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築

研究課題名（英文） Re-thinking the study of medieval Japanese documents through the construction and use of a computer supported cooperative work system

研究代表者

近藤 成一 (KONDO SHIGEKAZU)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：90153717

研究成果の概要（和文）：1600年以前の日本の古文書に関する諸情報を共有し、文書名の付与や年代比定などの基礎作業を共同で行う「古文書バーチャルラボ」を構築した。「古文書バーチャルラボ」の運用により、史料編纂所歴史情報システム上の古文書に関するデータを修正・追加することを試行し、また古文書学上の研究成果については公開研究会において発表した。また『鎌倉遺文』未収録の文書数について検討した。以上の内容を報告書にまとめ、「東京大学史料編纂所研究成果報告 2012-4」として刊行した。

研究成果の概要（英文）：The research group made a computer supported cooperative work system for research on medieval Japanese documents. Users of this system use various information about historical documents and collaboratively work to add more information to the system. Using this system, the group revised considerable information in the Shiryohensanjo Historical Information Processing System (SHIPS). The group held a conference open to the public about their research and published a report as Tokyo Daigaku Shiryohensanjo kenkyu seika hokoku 2012-4.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	12,100,000	3,630,000	15,730,000
2010年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
2011年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
2012年度	6,900,000	2,070,000	8,970,000
年度			
総計	36,600,000	10,980,000	47,580,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：史料研究・協調作業環境・古文書・ユニオンカタログ・鎌倉遺文・日本史・中世・影写本

1. 研究開始当初の背景

(1) 東京大学史料編纂所は1985年度より影写本収録古文書21万点の目録データベース化を開始し、24年の歳月をかけて2008年度をもって当初の目標を達成した。さらに古文書情報の採集範囲を拡大して、古文書に関するナショナルユニオンカタログを構築するこ

とを計画し、2005年度より2008年度までに、「日本古文書ユニオンカタログ」システムを構築した。このシステムではさまざまな媒体上の古文書情報を目録データとして網羅的に登録し、実体として同一の古文書に関するデータを統合するという方式をとっている。
(2) 史料編纂所は一方で、1994年度より古文

書フルテキストデータベースシステムを開発し、『大日本古文書(家わけ)』『同(編年)』『平安遺文』『鎌倉遺文』を対象とするフルテキストデータベースをリリースしている。また1997年度以降、原本、影写本、謄写本等の史料画像のデジタル化を進め、出版物版面画像もすべてデジタル化した。2005年度以降に開発された「日本古文書ユニオンカタログ」は、史料編纂所の提供する古文書関係のすべてのフルテキストデータと史料画像・版面画像データ、さらに史料編纂所以外の機関から公開されているデータにリンクする仕組みを備えた。

(3)2006年度に史料編纂所に附設された前近代日本史情報国際センターは、国立情報学研究所よりの委託事業として「鎌倉遺文バーチャルラボラトリ」を立ち上げた。メディアウィキを利用して、『鎌倉遺文』全文データの修正・追加を協調作業環境において行うというシステムである。試行段階のものであるため、本データベースとの関係をどうするかなど検討課題を多く残していたが、史料編纂所の電算機事業に協調作業環境を導入する出発点となった。

2. 研究の目的

(1)1600年以前の古文書を対象として、古文書の所在情報、画像、釈文を共有し、文書名の付与・年代比定等の古文書利用のための基礎作業を共同で行い、文書の形態・様式・機能・伝来等々に関する古文書学上の議論を組織・集約する協調作業環境をネットワーク上のバーチャルオーガニゼーションとして構築する。

(2)同オーガニゼーションの運用により、「日本古文書ユニオンカタログ」の網羅性の精度を上げ、『鎌倉遺文』データの修正・追加を推進する。

(3)20万件を確実に超え数十万件に及ぶことの予想される1600年以前古文書の全体について、文書名の検討と年代比定を進め、古文書学を帰納的に再構築する方向を示す。

3. 研究の方法

協調作業環境のモデルシステムとして開発された「鎌倉遺文バーチャルラボラトリ」の運用にもとづく問題点の検討を踏まえて、東京大学史料編纂所が提供する「日本古文書ユニオンカタログ」「古文書フルテキストデータベース」「奈良時代古文書フルテキストデータベース」「平安遺文フルテキストデータベース」「鎌倉遺文フルテキストデータベース」を土台として、古文書研究の協調作業環境を構築し、運用に基づいてシステムの評価を行うとともに、同システムを利用して古文書学を帰納的に再構築する方向を示す。

第1年度には、古文書研究の協調作業環境

をネットワーク上のバーチャルオーガニゼーションとして構築するためのシステムの基本設計を行う。

第2年度には、システム・プログラミングを行い、実装し、検収する。

第3年度には、前年度実装されたシステムを運用して、問題点を検討し、必要なプログラミングを追加して行う。

第4年度には、システムを運用しながら必要な修正を加え、さらにシステムの評価を行う。その上で次期課題の整理する。またシステム運用にもとづく古文書学上の研究成果について、公開研究会を開催して、発表する。

4. 研究成果

(1)1600年以前の古文書を対象として、古文書の所在情報、画像、釈文を共有し、文書名の付与・年代比定等の古文書利用のための基礎作業を共同で行い、文書の形態・様式・機能・伝来等々に関する古文書学上の議論を組織する協調作業環境(「古文書バーチャルラボ」と称する)を構築した。すなわち、

①史料編纂所歴史情報処理システム(SHIP S)上の「鎌倉遺文バーチャルラボラトリ」「鎌倉遺文フルテキストデータベース」「日本古文書ユニオンカタログ」について、必要なシステム改修を行った。

②新規にサーバを導入し、その上に「鎌倉遺文バーチャルラボラトリ」と「鎌倉遺文フルテキストデータベース」とを連携させるシステム(「データ連携ツール」と称する)を構築した。

(2)「古文書バーチャルラボ」の運用により、「日本古文書ユニオンカタログ」および「鎌倉遺文フルテキストデータベース」のデータ修正・追加について試行した。

関係者による個別の作業のほかに、共通基盤となる作業として、研究分担者海老澤衷が代表を務める鎌倉遺文研究会による東寺百合文書に関する研究成果を「鎌倉遺文バーチャルラボラトリ」上に登録し、「鎌倉遺文フルテキストデータベース」に移行させた。

(3)「古文書バーチャルラボ」運用による古文書学上の研究成果を発表するため、2012年9月18日に公開研究会を開催した。

第1部 研究成果の概要 近藤成一

第2部 古文書研究をめぐる諸問題：『鎌倉遺文』未収録の荘園帳簿について 海老澤衷／広島大学所蔵の『鎌倉遺文』未収録文書について 本多博之／『鎌倉遺文』未収の天皇家御願寺関連史料—京都大学文学部所蔵「金剛心院文書」から 遠藤基郎／『鎌倉遺文』の「古田券」を典拠とする文書について 柳原敏昭／弘長三年東寺観智院金剛藏所蔵『仁和寺興隆俊約等条々』について 稲葉伸道／古文書写二題—『宝永三年秋鹿・島根両郡神社書出帳』と『岩国藩中諸家古文書』より—

西田友広／中世の位記について 遠藤珠紀
／豊臣秀次朱印状の一斉発給について 金子拓

第3部 鎌倉遺文バーチャルラボラトリーの
課題について 渡邊正男

(4) 鎌倉遺文未収録文書数について検討した。

「日本古文書ユニオンカタログ」(以下「古文書UC」)の公開データ数は、2012年11月30日現在で418,494件であるが、鎌倉時代古文書のデータ数は80,182件であり、そのうち35,124件が『鎌倉遺文』を底本とするデータ数である。言い換えればその差分45,058件が『鎌倉遺文』以外を底本とするデータ数ということになる。このうちには実体は同一文書であるが、別の底本から採られているために重複してカウントされているものがある。

鎌倉時代古文書80,182件を3つに区分すると、各区分に属するデータ数は次のようになる。

α 鎌倉遺文を底本とするデータで、他の底本のデータと統合されていないもの 19,077件

β 鎌倉遺文を底本とするデータと、他の底本のデータが統合されているもの 40,332件

γ 鎌倉遺文を底本とするデータと統合されていない、他の底本のみによるデータ 20,773件

上記のうち、 β には鎌倉遺文を底本とするデータと、他の底本のデータが、たとえ統合されていても別々にカウントされているし、 γ は鎌倉遺文を底本とするデータを含まないが、鎌倉遺文外を底本とするデータ同士で統合されている場合も、それらは別々にカウントされている。統合されているデータについては代表データのみを数えることにすると、上記の数値は次のように収縮する。

α 19,077件 鎌倉遺文データのみなので収縮せず

β 40,332件→16,047件

γ 20,773件→18,741件

上記の数字が2012年11月30日現在のものである。3か月以前の2012年8月31日から公開データの増加はないが、この間にデータ統合を進めた。その成果がどのくらいを示すために、代表データ数の変化を示すと、

	8月31日	11月30日
α	20,451件	19,077件
β	14,673件	16,047件
γ	20,597件	18,741件
計	55,721件	53,865件

全体として、データ統合により、代表データ数が1,856件減じて、55,721件から53,865件になった。

$$55721 - 53865 = 1856$$

$\alpha + \beta$ は鎌倉遺文データ数を示すので、

35,124件で一定である。従って鎌倉遺文データと他底本データとの統合により β が増加し α が減少するが、その数値は一致し、1,374件である。

$$20451 - 19077 = 16047 - 14673 = 1374$$

γ の減少数1,856件のうち、上記の数値1,374件は鎌倉遺文データと他底本データとの統合によるものであるが、1,856件から1,374件を減じた差分482件は、他底本データ同士の統合によるものである。

$$20597 - 18741 = 1856$$

$$1856 = 1374 + 482$$

$\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ の数値は、データ登録による総数の増加とデータ統合の進捗の2つの要素に規定される。 β には「総数の増加」と「統合の進捗」の両方が増加要因として作用する。 α には「総数の増加」単独では増減いずれにも作用せず、「統合の進捗」が減少要因として作用するが、「総数の増加」は統合の可能性を高める。 γ には「総数の増加」は増加要因として、「統合の進捗」は減少要因として作用する。

「総数の増加」と「統合の進捗」が理想的に進めば、やがて $\alpha=0$ になり、 $\beta=35,124$ となり(『鎌倉遺文』自体における重複文書が統合されると $\beta < 35,124$ となる)、それ以後、さらに「総数の増加」と「統合の進捗」が進んでも $\alpha \cdot \beta$ の数値は変化しなくなる。そしてその時点以後の γ の数値が、データ統合が完璧に行われているという前提に立てば、『鎌倉遺文』未収録文書数を示すことになる。

2012年11月30日現在で $\alpha=19,077$ 件というのは、『鎌倉遺文』収録文書について、対応する底本によるデータを見出し得ていないものがそれだけあるということを意味する。『鎌倉遺文』収録文書総数の過半数である。これはもちろん古文書UCにおけるデータ登録とデータ統合の両方が不十分であることによるけれども、内容に立ち入って検討すると、『鎌倉遺文』には典籍・記録所引文書が相当数収録されており、古文書UCの登録作業がまだそこまで及んでいないことにもよると思われる。

一方で、 $\gamma=18,741$ 件というのは、これがそのまま『鎌倉遺文』未収録文書の数を示すわけではない。おそらくこのうちには『鎌倉遺文』データと統合されて α を減少させるデータが相当残っているであろうし、あるいはまた『鎌倉遺文』データとは統合されない、従って『鎌倉遺文』未収録文書のデータであっても、それら同士で統合可能な場合も相当残っていると思われるので、データ統合の精度を上げれば、 γ の数値はもっと小さくなるであろう。現時点で γ の数値がかなり大きいことは、『鎌倉遺文』未収録の文書が相当多いことよりも、古文書UCにおけるデータ統合作業がまだまだ不十分であることを示し

ていると考える。

(5)以上の研究成果の内容を報告書にまとめ、「東京大学史料編纂所研究成果報告 2012-4」として刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計62件)

- 1) 近藤成一、イェール大学所蔵播磨国大部庄関係文書について、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、23、2013、1-21
- 2) 稲葉伸道、弘長三年東寺観智院金剛蔵所蔵「仁和寺興隆儉約等條々」について—鎌倉中期の仁和寺御室、名古屋大学文学研究科論集史学、査読無、59、2013、99-12
- 3) 西田友広、江津・都野津と江要害、東京大学日本史学研究室研究紀要、査読無、別冊『中世政治社会論叢』、2013、169-180
- 4) 遠藤珠紀、「豊臣伝奏」の成立と展開、東京大学日本史学研究室研究紀要、査読無、別冊『中世政治社会論叢』、2013、311-322
- 5) 遠藤珠紀、中世前期下級官人の年中行事、年中行事・神事・仏事、査読無、2013、370-395
- 6) 遠藤珠紀、足守木下家文書に残る三通の位記の再検討、日本歴史、査読有、778、2013、16-30
- 7) 遠藤珠紀、消えた前田玄以、偽りの秀吉像を打ち壊す、査読無、2013、43-67
- 8) 近藤成一、古文書バーチャルラボの構成、東京大学史料編纂所研究成果報告書、査読無、2012-4、2013、55-68
- 9) 山田太造、近藤成一、野村朋弘、古文書リネージプラットフォーム実現の可能性について、東京大学史料編纂所研究成果報告書、査読無、2012-4、2013、69-82
- 10) 遠藤基郎、京都大学総合博物館所蔵『金剛心院文書』の紹介、東京大学史料編纂所研究成果報告書、査読無、2012-4、2013、96-117
- 11) 山田太造、関連史料収集のための手法に関する考察—日本の南北朝期における史料を対象に—、研究報告人文科学とコンピュータ、査読無、vol. 2013-CH-97no. 6、2013、1-6
- 12) 海老澤衷、重要文化的景観選定プロセスにおける田染モデル、日本の原風景・棚田、査読無、13、2012、25-28
- 13) 柳原敏昭、『鎌倉遺文』の「古田券」を典拠とする文書について—『鎌倉遺文』未収録文書の紹介もかねて—、東京大学史料編纂所研究成果報告書、査読無、2012-4、2013、83-95
- 14) 柳原敏昭、東北中世史の開拓者大島正隆の鈴木家調査、産金村落と奥州の地域社会(池享・遠藤ゆり子編)、査読無、2012、225-249
- 15) 本多博之、戦国豊臣期の政治経済構造と東アジア、史学研究、査読無、277、2012、1-27
- 16) 本多博之、備後北部の戦国時代史、地域アカデミー 2011 公開講座報告書、査読無、2012、5-28
- 17) 本多博之、織田政権期京都の貨幣流通—石高制と基準銭「びた」の成立—、広島大学大学院文学研究科論集、査読無、72、2012、1-20
- 18) 遠藤基郎、非公家沙汰諸国所課再論、歴史、査読有、118、2012、110-133
- 19) 金子拓、天正四年興福寺別当職相論と織田信長、戦国・織豊期の西国社会、査読有、2012、861-892
- 20) 西田友広、嘉靖二十六年六月五日寧波府論の写本について、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、57、2012、4-9
- 21) 遠藤珠紀、武田信玄への三通の論旨、戦国史研究、査読有、64、2012、31-32
- 22) 山田太造、山本泰則、古瀬蔵、安達文夫、人文科学データベース統合検索のためのメタデータとその応用、じんもんこん 2012 論文集、査読有、vol. 2012no. 7、2012、71-78
- 23) 山田太造、古瀬蔵、安達文夫、nihuINTにおける人文科学研究資源の探索支援、研究報告人文科学とコンピュータ、査読無、vol. 2012-CH-96No. 9、2012、1-8
- 24) 山田太造、古瀬蔵、nihuINTによる人文科学研究資源の情報統合、画像電子学会年次大会予稿集、査読無、vol. 40th、2012、T1-4
- 25) Taizo Yamada、Satoshi Inoue、Tamaki Endo、Noriko Kurushima、A Text Analysis Method Using Nonparametric Bayesian Model for Japanese Historical Materials、Proceedings of 2nd JADH 2012 CONFERENCE、査読有、2012、16-20
- 26) 稲葉伸道、鎌倉中・後期における王朝の神社政策と伊勢神宮、名古屋大学文学部研究論集、査読無、58、2012、177-196
- 27) 金子拓、肥後加藤家旧蔵豊臣秀吉・秀次朱印状について(続)、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、22、2012、82-101
- 28) 西田友広、イェール大学所蔵『元徳二年後宇多院七回忌曼荼羅供記』について、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、22、2012、109-120
- 29) 山田太造、日本古文書ユニオンカタログ—古文書情報を網羅するための“古文書リネージ”プラットフォーム—、研究報告人文科学とコンピュータ(CH)、査読有、Vol2012-CH-93No1、2012、1-8
- 30) 近藤成一、中世日本の「王権」、アジア遊学、査読無、151、2012、16-26
- 31) 海老澤衷、『鎌倉遺文』未収録「東寺百合文書」(28)、鎌倉遺文研究、査読無、28、2011、160-166
- 32) 本多博之、中近世移行期西国の物流、日

本史研究、査読有、585、2011、83-112
33) 遠藤基郎、中世東大寺文書を俯瞰する、三田中世史研究、査読無、18、2011、1-39
34) 渡邊正男、大覚寺所蔵「儼避羅抄」紙背文書、室町時代研究、査読無、3、2011、65-84
35) 遠藤珠紀、織田信長子息と武田信玄息女の婚姻、戦国史研究、査読有、62、2011、31-32
36) 山田太造、デジタル史料写真帳：収集史料のデジタル化と検索・閲覧システム、画像電子学会年次大会予稿集、査読無、Vol139NoT1-2、2011、43-50
37) 山田太造、日本史史料における翻刻テキストの構造化支援手法、情報処理学会研究報告（人文科学とコンピュータ研究会報告）、査読無、Vol2011No5、2011、1-8
38) Taizo Yamada、A Support Method for Text Structuring of Japanese Historical Documents、Proceedings of Osaka Symposium on Digital Humanities 2011、査読有、巻なし、2011、40-40
39) 山田太造、日本史史料読解支援のための候補文字検索、じんもんこん 2011 論文集、査読有、Vol2011No8、2011、43-50
40) 金子拓、肥後加藤家旧蔵豊臣秀吉・秀次朱印状について、東京大学史料編纂所研究紀要。査読無、21、2011、16-38
41) 稲葉伸道、鎌倉後期の幕府寺社裁判制度について、名古屋大学文学部研究論集 史学、査読無、57、2011、131-150
42) 遠藤珠紀、穴山信君と策彦周良、日本歴史、査読無、754、2011、86-91
43) 近藤成一、中世天皇論の位相、歴史評論、査読無、731、2011、87-96
44) 海老澤衷、棚田と水資源を活用した楠木正成、アジア遊学、査読無、136、2010、154-162
45) 柳原敏昭、唐坊と唐人町、『日本の対外関係4 倭寇と「日本国王」』（荒野泰典・石井正敏・村井章介編、吉川弘文館刊）、査読無、2010、204-214
46) 本多博之、毛利元就の温泉津支配と輝元の継承、日本歴史、査読有、743、2010、35-54
47) 本多博之、天下統一と貨幣、西鶴と浮世草子研究、査読無、3、2010、115-121
48) 遠藤珠紀、中世朝廷の運営構造と経済、歴史学研究、査読有、872、2010、61-71
49) 遠藤珠紀、『職原抄』の伝来について、『中世政治史の研究』（阿部猛編、日本史史料研究会刊）、査読無、2010、953-972
50) 近藤成一、中世日本の国制と分権社会、『中世日本と西欧一多極と分権の時代』（近藤成一他編、吉川弘文館）、査読無、2010、32-50
51) 本多博之、毛利元就と大友宗麟、地域アカデミー、査読無、7、2010、39-51
52) 柳原敏昭、太田正雄、東北帝大医学部教授（木下空太郎）と学生たち、『東北人の自画像』（三浦秀一編、東北大学出版会）、査読

無、2010、131-174
53) 柳原敏昭、「源氏南部八戸家系」の成立、『南部光徹氏所蔵「遠野南部家文書」の調査・研究』（斉藤利男編、弘前大学）、査読無、2010、23-39
54) 近藤成一、鎌倉幕府裁許状再考、東北中世史研究会会報、査読無、19、2010、1-11
55) 近藤成一、東京大学史料編纂所における横断検索システムの構築Ⅱ—非横断型検索システムによる研究情報資源連携の試み、人間文化研究情報資源共有化研究会報告集、査読無、1、2010、75-78
56) 渡邊正男、「宗家判物写」所載文書編年目録稿、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、20、2010、1-24
57) 海老澤衷、早稲田大学文学学術院学術情報データベース、日本歴史、査読有、740、2010、84-86
58) 遠藤基郎、東京大学史料編纂所データベース、日本歴史、査読有、740、2010、73-76
59) 海老澤衷、鎌倉時代の立荘と村落形成—日根荘日根野村の誕生をめぐる—、歴史評論、査読有、740、2009、45-57
60) 山田太造、古文書を対象とした翻刻支援システム、Media Computing Conference 2009、2009 年度画像電子学会第 37 回年次大会予稿集、査読無、1、2009
61) 山田太造、デジタル資料情報記述モデルによるデータ記述について、国立歴史民俗博物館共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」公開研究会資料集、査読無、1、2009、23-26
62) 柳原敏昭、2008 年の歴史学界—回顧と展望—日本（中世）—総論、史学雑誌、査読無、118-5、2009、73-76
〔学会発表〕（計 3 4 件）
1) 金子拓、天正二～五年の絹衣相論の再検討、歴史学研究会日本中世史部会 12 月例会、2012 年 12 月 15 日、東京都
2) Taizo YAMADA、An Attempt to Obtain a Similar Japanese Historical Material Using The Variable Order N-gram、PNC 2012 Annual Conference and Joint Meetings、2012 年 12 月 7 日、UC Berkeley CA, USA
3) 金子拓、誠仁親王の立場、織豊期研究会（招待講演）、2012 年 11 月 23 日、名古屋市
4) 海老澤衷、田染荘におけるムラ、シンポジウム「古代のムラと中世のムラ—連続・非連続について考える—」（「ムラの戸籍簿」研究会主催）、2012 年 10 月 15 日、立命館大学衣笠キャンパス創思館
5) 近藤成一、研究成果の概要、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012 年 9 月 18 日、東京大学史料編纂所
6) 海老澤衷、『鎌倉遺文』未収録の荘園帳簿について、公開研究会「協調作業環境下での

中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

7) 稲葉伸道、弘長三年東寺観智院金剛藏所蔵『仁和寺興隆俊約等条々』について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

8) 本多博之、広島大学所蔵の『鎌倉遺文』未収録文書について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

9) 柳原敏昭、『鎌倉遺文』の「古田券」を出典とする文書について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

10) 遠藤基郎、『鎌倉遺文』未収の天皇家御願寺関連史料—京都大学文学部所蔵「金剛心院文書」から、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日東京大学史料編纂所

11) 金子拓、豊臣秀次朱印状の一斉発給について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

12) 西田友広、古文書写二題—『宝永三年秋鹿・島根両郡神社書出帳』と『岩国藩中諸家古文書』より—、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

13) 遠藤珠紀、中世の位記について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

14) 渡邊正男、鎌倉遺文バーチャルラボラトリーの課題について、公開研究会「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」、2012年9月18日、東京大学史料編纂所

15) 柳原敏昭、史学史研究の現在、中世史サマーセミナー50周年記念シンポジウム、2012年8月26日、埼玉県立嵐山史跡の博物館

16) 柳原敏昭、外交文書に見る戦国期南奥羽の地域性—遠藤家文書の調査から—、東北中世史研究会サマーセミナー、2012年8月5日、米沢市小野川温泉

17) 海老澤衷、中世における水田開発と鉄生産—備中国新見荘の場合—、第10回考古学と中世史シンポジウム「水の中世—開発・生活・災害—」、2012年07月07日、帝京大学文化財研究所

18) 遠藤基郎、東大寺とその荘園—古文書にみる大部荘、南カリフォルニア大学国際シン

ポジウム「荘園制を再考する：中世日本の社会と経済」、2012年6月5日、米国ロサンゼルス

19) 山田太造、日本古文書ユニオンカタログ—古文書情報を網羅するための“古文書リネージ”プラットフォーム—、第93回人文科学とコンピュータ研究発表会、2012年1月27日、奄美市立奄美博物館（奄美市）

20) 山田太造、日本史史料読解支援のための候補文字検索、人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2011」、2011年12月10日、龍谷大学（京都市）

21) 本多博之、戦国豊臣期の政治経済構造と東アジア、広島史学研究会大会シンポジウム、2011年10月29日、広島大学（東広島市）

22) 柳原敏昭、大島正隆採訪「織田家御内書十四通」—秋田家史料の「新出」文書紹介—、東北史学会大会、2011年10月2日、東北大学（仙台市）

23) 山田太造、日本史史料における翻刻テキストの構造化支援手法、第91回人文科学とコンピュータ研究発表会、2011年7月30日、大阪電気通信大学（寝屋川市）

24) 本多博之、信長が見た戦国京都の貨幣事情、平安京・京都研究集会 第22回 信長と京都、2011年7月31日、機関紙会館（京都市）

25) 山田太造、日本史史料における翻刻テキストの構造化支援手法、第91回人文科学とコンピュータ研究発表会、2011年7月30日、大阪電気通信大学（寝屋川市）

26) 海老澤衷、田染荘小崎の歴史的価値、シンポジウム「重要文化的景観と農村の未来」、2011年7月16日、早稲田大学（東京都）

27) 山田太造、デジタル史料写真帳：収集史料のデジタル化と検索・閲覧システム、画像電子学会2011年度年次大会、2011年6月25日、くにびきメッセ（松江市）

28) 本多博之、中近世移行期西国の物流、日本史研究会、2011年1月8日、京都大学

29) 山田太造、史学研究をいかに支援するか—歴史情報の生成・管理と利活用の支援方法—、アート・リサーチセンター連続講演会「デジタル・ヒューマニティーズのいま×人文学研究のいま」、2010年12月10日、立命館大学アート・リサーチセンター

30) 遠藤珠紀、中世朝廷の運営構造と経済、歴史学研究会、2010年5月23日、専修大学

31) 本多博之、戦国期の瀬戸内海水運と政治権力、広島県立歴史博物館開館20周年記念公開シンポジウム「中世後期の流通を考える」、2009年11月1日、広島県立歴史博物館

32) 海老澤衷、「里山と棚田を守る」の今日的意義、棚田学会大会シンポジウム「里山と棚田を守る—歴史・論理・実践」、2009年7月18日、三越劇場

33) 山田太造、古文書を対象とした翻刻支援

システム、画像電子学会 2009 年度年次大会、
2009 年 6 月 25 日、旭川市勤労者福祉総合セ
ンター

34) 近藤成一、東京大学史料編纂所における
横断検索システムの構築Ⅱ—非横断型検索
システムによる研究情報資源連携の試み、人
間文化研究情報資源共有化研究会、2009 年 5
月 29 日、国文学研究資料館（東京都）

〔図書〕（計 12 件）

1) 近藤成一、東京大学史料編纂所、東京大学
史料編纂所研究成果報告 2012-4 協調作業環
境下での中世文書の網羅的収集による古文
書学の再構築、2013、364

2) 遠藤基郎、竹林舎、生活と文化の歴史学 2
年中行事・神事・仏事、2013、600

3) 近藤成一、本多博之、他、山口県、山口県
史 通史編 中世、2012、1000(3-78 105-123
635-661)

4) 金子拓、勉誠出版、『信長記』と信長・秀
吉の時代、2012、332

5) 西田友広、他、吉川弘文館、現代語訳吾妻
鏡 十二 宝治合戦、2012、222

6) 柳原敏昭、白石市歴史文化を活用した地域
活性化実行委員会、伊達氏重臣遠藤家文書・
中島家文書—戦国編—、2011、1-68 112-114

7) 金子拓、講談社、記憶の歴史学史料に見る
戦国、2011、314

8) 西田友広、吉川弘文館、鎌倉幕府の検断と
国制、2011、258

9) 遠藤珠紀、吉川弘文館、中世朝廷の官司制
度、2011、381

10) 柳原敏昭、吉川弘文館、中世日本の周縁
と東アジア、2011、346

11) 遠藤基郎、山川出版社、後白河上皇—中
世を招いた奇妙な「暗主」、2011、96

12) 近藤成一、他、吉川弘文館、中世 日本
と西欧—多極と分権の時代、2009、474

〔その他〕

1) ホームページ

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/kondo/komonjov1/>

2) データベース

<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>

3) バーチャルラボラトリ

<http://cliokbn.hi.u-tokyo.ac.jp/kamakura/index.php>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近藤 成一 (KONDO SHIGEKAZU)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：90153717

(2) 研究分担者

海老澤 衷 (EBISAWA TADASHI)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：60194015

稲葉 伸道 (INABA NOBUMICHI)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：70135276

本多 博之 (HONDA HIROYUKI)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：30268659

柳原 敏昭 (YANAGIHARA TOSHIAKI)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：30230270

遠藤 基郎 (ENDO MOTOO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

渡邊 正男 (WATANABE MASAO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80230994

(3) 連携研究者

鴨川 達夫 (KAMOGAWA TATSUO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：60214566

金子 拓 (KANEKO HIRAKU)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：10302655

西田 友広 (NISHITA TOMOHIRO)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：90376640

遠藤 珠紀 (ENDO TAMAKI)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：10431800

山田 太造 (YAMADA TAIZO)

人間文化研究機構・本部・特任研究員

研究者番号：70413937

(4) 研究協力者

神野 潔 (JINNO KIYOSHI)

武蔵野学院大学・国際コミュニケーション学

部・准教授

研究者番号：40409272

野村 朋弘 (NOMURA TOMOHIRO)

京都造形芸術大学・芸術学部・講師

研究者番号：00568892

岡本 隆明 (OKAMOTO TAKAAKI)

京都府立総合資料館・主任

アドルフソン ミカエル (ADOLPHSON MIKAEL)

カナダ・アルバータ大学・准教授